



進学だより



大学入学共通テストも終わり、いよいよ私立大学および国立大学の一般入試が本格化してきました。3年生にとっては、苦しい1年間だったと思いますが、残りもあとわずかです。最後まであきらめずに難関に挑んで欲しいと思います。

さて、1・2年生にとっては3年生と過ごす最後の1カ月となります。今月の10日には進路を決定した3年生が、1・2年生のために進路体験談を話してくれます。どんな思いで高校生活を過ごしてきたのか、またいつから進路を意識して準備し始めたのか、そして具体的に何をやってきたのか、など進路実現までのエピソードを話してくれると思います。今の自分の高校生活の過ごし方を振り返り、改善すべきところや継続していくべきこと、また考え方や具体的な学習方法など、取り入れていけることがあれば、ぜひ皆さんの学校生活にどんどん取り入れていきましょう！

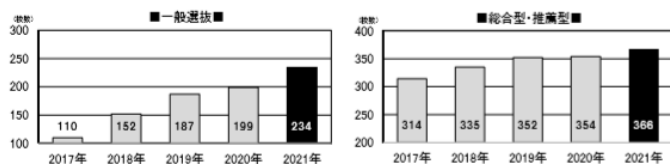
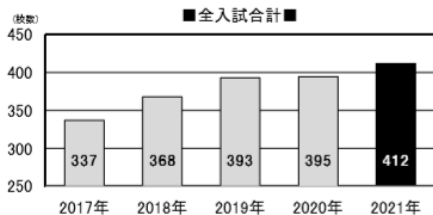
また、来月の2日からは学年末考査も始まります。ここまでの1年間を振り返ったときに「学習」に対してどのように向き合ってきたでしょうか？学年末考査は進級に関わると同時に1年間の学習を締めくくるとなる大事な試験です。また新年度に大きくステップアップするための土台作りとなる試験でもあります。この1ヶ月、試験の『結果』にこだわり、どんな学習に取り組んで欲しいと思います。

THE END CROWNS ALL. (最後が全てに冠を被せる)

2月	進学に関わる行事
2月2日	知のクラスマッチ 計算⑨
6日	進学模試(特進2年)
9日	知のクラスマッチ 漢字⑩
10日	在校生による進路ガイダンス
12日	漢字検定
13日	数学検定
16日	知のクラスマッチ 計算⑩
16日	校外進路ガイダンス(2年)
22日	学年末考査日割発表(1・2年)

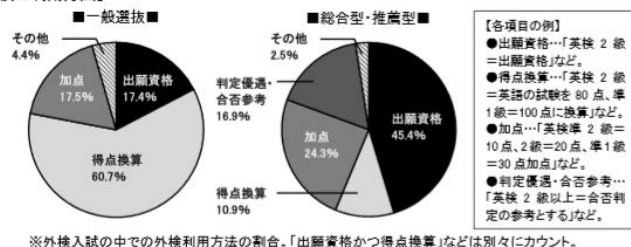
■ 外部検定利用入試 2021 年は増加！

●外検利用大学数
【全大学合計】

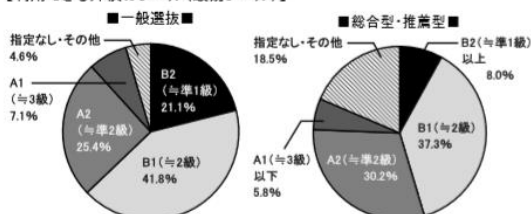


●利用方法、利用できるレベル

【外検の利用方法】



【利用できる外検のレベル(最易レベル)】



e-ポートフォリオの導入、大学入学共通テストなどについて二転三転あった2021年度入試でしたが、いよいよ大学入試も本格化してきました。二転三転の中でも特に記憶に新しいのが、成績提供システムの見送りではないでしょうか。そのため、英語の外部検定(外検)を利用する大学は、当初の予定より大幅な減少が見込まれました。

しかし、フタを開けてみると左グラフのように2021年入試は昨年度と比べ、一般選抜、総合型・推薦型ともに増加となっていることがわかります。

特に一般選抜の中でも私立大の利用増加が著しくなっています。利用大学を設置者別の割合で見ると、一般、総合、推薦合計では「国立大=61.0%」「公立大=32.3%」「私立大=56.7%」「全体=54.1%」となり、国立大がもっとも多くなっています。ただし一般選抜では「国立大=19.5%」「公立大=4.3%」「私立大=36.5%」「全体=30.7%」で、国公立大ではなかなか一般選抜での利用が広がっていません。

利用方法とレベル、いずれのグラフも全体的な傾向は昨年度と変わらず、利用方法は「一般選抜=得点換算」「総合型・推薦型=出願資格」がもっとも多く、レベルは最低 CEFR A2 (英検準 2 級レベル) が必要といえます。

今月は、漢字検定や数学検定も実施されますが、多くの大学で、英検だけでなく取得したこれらの検定の結果を入試の得点に加点する大学も多くあります。

『自分の得意』を活かすためにも、早いうちに様々な検定試験にもチャレンジしてみることをお勧めします。